

令和4年度（2022年度）「道民意識調査」結果の概要

【調査の概要】

1 調査の目的

道政上の重要課題や主要施策に関する世論調査を実施し、道民の道政に対する意向や意識の的確な把握に努めるとともに、政策形成に反映させることを目的とする。

2 調査項目及び担当部課

調査項目：7 設問：31

調査項目	設問数	担当部課
1 ゼロカーボン北海道について	6	環境生活部ゼロカーボン推進局 ゼロカーボン戦略課
2 ケアラー支援について	4	保健福祉部高齢者支援局高齢者保健福祉課
3 がん対策について	7	保健福祉部健康安全局地域保健課
4 部活動改革（部活動の地域移行）について	4	教育庁教職員局教職員課
5 生物多様性の取組について	5	環境生活部自然環境局自然環境課
6 信号機のない横断歩道の交通安全について	2	北海道警察本部交通部交通企画課
7 薬物乱用の防止について	3	北海道警察本部刑事部薬物銃器対策課

3 調査の方法等

- (1) 調査地域 北海道全域
 (2) 調査対象 道内に居住する満18歳以上の個人
 (3) 標本数 1,500サンプル（人）
 (4) 地点数 150地点
 (5) 抽出方法 層化二段無作為抽出法
 (6) 調査方法 調査票を郵送配付、郵送またはweb（スマホ）を選択し回答
 (7) 調査期間 令和4年（2022年）9月
 (8) 有効回収数（率） 860（57.3%）

【回答方法内訳】 郵送回答 547(63.6%) Web回答 313(36.4%) 合計 860(100.0%)

4 回答者の特性

* 端数処理の関係で合計が100%にならない場合があります。

圏域別	道央	道南	道北	オホーツク	十勝	釧路・根室	無回答
	61.6%	8.1%	12.6%	4.8%	7.0%	5.3%	0.6%

人口規模別	札幌市	人口10万人以上の市	人口10万人未満の市	町村	無回答
	38.0%	25.7%	18.0%	17.3%	0.9%

年代別	18～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上	無回答
	9.3%	17.3%	24.1%	25.3%	16.0%	7.1%	0.8%

【調査の結果】

○選択項目の中から1つを選ぶ設問については、原則、全選択肢を記載。

○選択項目の中から複数を選ぶ設問については、回答数の多かった上位3位までを記載。

1 ゼロカーボン北海道について

担当部課：環境生活部ゼロカーボン推進局ゼロカーボン戦略課

◆調査の目的

ゼロカーボン北海道の取組を進めるため、道民の認知度や取組を把握し、各種施策に反映させることを目的に実施。

◆各設問の主な調査結果

問1 ゼロカーボン、カーボンニュートラル、脱炭素という言葉をごどれか一つでも知っていますか。（一つだけ選択）

- | | |
|---------------------------|---------|
| ① 言葉の意味を知っている | (18.5%) |
| ② 言葉の意味をある程度知っている | (34.1%) |
| ③ 言葉の意味は知らないが、言葉は聞いたことがある | (30.2%) |
| ④ 言葉の意味も知らないし、聞いたこともない | (16.7%) |

問2 ゼロカーボンは必ず達成すべきと考えますか。（一つだけ選択）

- | | |
|----------------------|---------|
| ① 必ず達成すべきと考える | (21.3%) |
| ② 経済を優先した中で達成すべきと考える | (69.3%) |
| ③ そうは思わない | (8.1%) |

問3 2050年にゼロカーボンを目指し、2030年度に温室効果ガス48%削減（2013年度対比）を目標としたことを知っていますか。（一つだけ選択）

- | | |
|------------|---------|
| ① 知っている | (9.8%) |
| ② 聞いたことはある | (32.0%) |
| ③ 知らない | (57.9%) |

問4 あなたは暮らしの中でゼロカーボンを意識した行動をしていますか。（一つだけ選択）

- | | |
|--------------|---------|
| ① 意識している | (4.3%) |
| ② ある程度意識している | (29.1%) |
| ③ あまり意識していない | (45.0%) |
| ④ 全く意識していない | (21.3%) |

問5 どうしたらゼロカーボンにつながる行動が増えると思いますか。（複数回答：上位3位）

- | | |
|---|---------|
| ① ゼロカーボンにつながる行動を具体的に知ることができる | (52.8%) |
| ② ゼロカーボンの目的がもっと浸透する | (46.0%) |
| ③ ゼロカーボンに寄与する対象商品の購入やサービス利用時にポイントが貯まり、利用できる | (45.5%) |

問6 ゼロカーボンが達成されることでどのような効果（影響）があると思いますか。
（複数回答：上位3位）

- ① 大気中の温室効果ガス濃度が低下することで、異常気象が減り、豪雨や猛吹雪の回数が減少する (52.6%)
- ② 大気中の温室効果ガス濃度が低下することで、異常気象が減り、猛暑日が増える (51.5%)
- ③ エネルギー価格が上がることで様々な原料価格が高騰し、結果、商品価格が値上げされる (23.8%)

2 ケアラー支援について

担当部課：保健福祉部高齢者支援局高齢者保健福祉課

◆調査の目的

家族等の身近な人を介護や援助するいわゆる「ケアラー」の方々について、道として総合的な支援を進めて行くための「北海道ケアラー支援推進計画（仮称）」を策定するに当たり、家族介護に関する認知度や意識などを把握し、施策に反映させることを目的に実施。

◆各設問の主な調査結果

問1 あなたは、「ケアラー」や「ヤングケアラー」という言葉をどの程度ご存じですか。
（1つだけ回答）

- ① どのようなものかよく知っている (22.4%)
- ② ある程度知っている (48.6%)
- ③ 聞いたことはあるが、内容はよく知らない (14.3%)
- ④ まったく知らなかった（この調査で初めて知った） (14.4%)

問2 「ケアラー」や「ヤングケアラー」という言葉をどのようにして知りましたか。
※問1で選択肢1「よく知っている」または2「ある程度知っている」を選択した方のみ回答（複数回答：上位3位）

- ① テレビ (85.9%)
- ② インターネット (38.0%)
- ③ 新聞 (33.9%)

問3 家庭において家族を介護することについて、どのようにお考えですか。（1つだけ回答）

- ① 家族が介護することは当然だと思う (5.1%)
- ② 他人よりも家族による介護のほうが望ましい (15.5%)
- ③ 介護サービス等の公的支援を受けるほうが望ましい (62.0%)
- ④ 介護サービス等の公的支援を受けることは当然だと思う (16.5%)

問4 今後、家族を介護する当事者の立場になる可能性についてどのようにお考えですか。
（1つだけ選択）

- ① ごく身近なことだと思う（現に介護を行っている） (18.7%)
- ② 自分も当事者になる可能性が十分あると思う (74.0%)
- ③ 自分が当事者になる可能性はあまりないと思う (6.0%)
- ④ 自分が当事者になる可能性はないと思う（他人事だと思う） (0.9%)

3 がん対策について

担当部課：保健福祉部健康安全局地域保健課

◆調査の目的

がん対策の一層の充実に向けて、令和5年度中に見直すこととしている次期「北海道がん対策推進計画」に反映させることを目的に実施。

◆各設問の主な調査結果

問1 あなたは、「がん」についてどのような印象を持っていますか。（1つだけ選択）

- | | |
|----------------------|---------|
| ① こわいと思う | (53.4%) |
| ② どちらかと言えば、こわいと思う。 | (36.6%) |
| ③ どちらかと言えば、こわいとは思わない | (5.0%) |
| ④ こわいと思わない | (2.9%) |
| ⑤ わからない | (2.1%) |

問2 道内のがん検診受診率は、全国平均と比べ低い傾向にあります。少しでも多くの方ががん検診を受けるためにはどのような対策が必要だと思いますか。（複数回答：上位3位）

- | | |
|-----------------------|---------|
| ① 検診を無料化すること | (68.6%) |
| ② 身近なところで受診できるようにすること | (39.7%) |
| ③ からだに負担の少ない検査方法にすること | (33.0%) |

問3 ご自身または家族ががん患者となった場合、どこに相談しますか。

あるいは、がんに関する情報をどこから入手しますか。（複数回答：上位3位）

- | | |
|--|---------|
| ① 通院・入院先の病院 | (79.1%) |
| ② 主治医・かかりつけ医 | (54.4%) |
| ③ がん診療連携拠点病院（専門的ながん医療の提供等を行う病院）
の相談支援センター | (44.2%) |

問4 がんになっても働き続けられることができる社会づくりのため、今後、どのようなことが必要だと思いますか。（複数回答：上位3位）

- | | |
|-----------------------|---------|
| ① 勤務する企業・職場の管理者の理解 | (75.2%) |
| ② 治療と就労を両立するための福利厚生充実 | (53.0%) |
| ③ 医療従事者による適切な治療計画の提供 | (35.0%) |

問5 がん患者が質の高い療養生活を送るため、がんと診断されてからの「緩和ケア」取り組む医療機関や施設が増えていますが、「緩和ケア」について、あなたはどの程度ご存じですか。（1つだけ回答）

- | | |
|-----------------------|---------|
| ① どのようなものかよく知っている | (18.3%) |
| ② ある程度知っている | (34.4%) |
| ③ 聞いたことはあるが、内容はよく知らない | (33.7%) |
| ④ 全く知らない | (13.4%) |

問6 仮にあなたががん患者となり、余命6ヶ月と宣告された場合、療養生活の場として希望するのはどこですか。(1つだけ回答)

- ① 最後まで「自宅」を希望する (23.5%)
- ② 老人ホームなどの「施設」を希望する (0.7%)
- ③ 緩和ケアなどを受けられる「病院」を希望する (20.0%)
- ④ その時に受診(通院・入院)している「病院」を希望する (3.8%)
- ⑤ 「自宅」で過ごしたいが家族の負担等があるので「施設や病院」等を希望する (40.0%)
- ⑥ わからない (9.1%)

問7 がん対策を進める上で、今後どのような取組が特に重要だと思いますか。

(複数回答：上位3位)

- ① 専門的ながん医療を提供する医療機関の整備 (50.7%)
- ② がん検診の受診率向上 (47.2%)
- ③ がん患者や家族への経済や雇用等の支援 (41.6%)

4 部活動改革(部活動の地域移行)について

担当部課：教育庁教職員局教職員課

◆調査の目的

少子化に伴う生徒数の減少により、今の部活動を維持することが難しくなっています。国の有識者会議の提言では段階的に地域移行することなどが示されました。今後、道で新たに策定する推進計画等に反映させることを目的に実施。

◆各設問の主な調査結果

問1 中学校の部活動に求めるものとして、あなたの考えに近いものはどれですか。

(複数回答：上位3位)

- ① 豊かな人間性を育み、自己肯定感を高めること (57.1%)
- ② スポーツや文化に親しみ、楽しむこと (51.2%)
- ③ 好ましい人間関係を築くこと (39.1%)

問2 部活動の地域移行を進めることとした場合、重視すべきことはどれですか。

(1つだけ回答)

- ① 少子化の中でも、生徒がスポーツ・文化に親しむ機会を確保すること (60.0%)
- ② スポーツ・文化の裾野の拡大 (10.8%)
- ③ 教員が授業準備など本来業務に専念できること (20.6%)
- ④ スポーツ・文化のまちづくり (5.9%)

問3 地元で地域移行後の受け皿となる団体がない場合など、どう対処したら良いと思いますか。(1つだけ回答)

- ① 関係者で受け皿になる団体の設置を検討する (17.7%)
- ② 外部から指導者を招き、市町村内で指導を受けられるようにする (48.6%)
- ③ 近隣の市町村で中学生が活動できるよう検討する (19.3%)
- ④ わからない (12.8%)

問4 少子化に伴う生徒数の減少によって、今の部活動を維持することが難しくなっており、また、部活動が中学校の教員の長時間勤務の要因の一つとなっています。その解消のためにどう対処したらよいと思いますか。（複数回答：上位3位）

- ① 部活動は地域の団体や民間企業が指導し、教員は授業準備など本来業務に専念する (59.2%)
- ② 土日をはじめ、教員が部活動を指導しなくてもよい日を設ける (54.9%)
- ③ 部活動の種目数、活動日数や時間を減らす (19.4%)

5 生物多様性の取組について

担当部課：環境生活部自然環境局自然環境課

◆調査の目的

野生動植物には様々な種類があり、それらが直接的・間接的に関わり合いながら生きていることを「生物多様性」といいます。それらがもたらす恵みを将来にわたり享受していくため、この「生物多様性」に対する道民の関心や考え方を把握し今後の施策に反映させることを目的に実施。

◆各設問の主な調査結果

問1 あなたは、「生物多様性」という言葉をどの程度ご存じですか。（1つだけ回答）

- ① 言葉の意味を知っている (9.0%)
- ② 言葉の意味をある程度知っている (24.0%)
- ③ 言葉の意味は知らないが、言葉は聞いたことがある (32.0%)
- ④ 言葉の意味も知らないし、聞いたこともない (34.3%)

問2 私たちのくらしは、生物多様性がもたらす多くの恵みに支えられています。この恵みを「生態系サービス」と呼びます。あなたが重要と考えるのはどの生態系サービスですか。（複数回答：上位3位）

- ① 植物が二酸化炭素を吸収し酸素を作り出したり、気候を調整する機能 (64.5%)
- ② 森林や湿地が、雨水を受け止めゆっくり流したり、水を浄化したり、土砂流出を防ぐ機能 (63.6%)
- ③ 各地域で獲れる特色ある魚介類・海藻類・山菜・キノコ・シカ肉 (49.4%)

問3 現在、地球上の様々な動植物やそれらが生息・生育できる環境を守る「生物多様性保全の取組」が進められています。あなたはこのことについてどのようにお考えでしょうか。

(1つだけ回答)

- ① 人間の生活がある程度制約されても、多種多様な動植物が存続できる環境の保全を優先する (37.0%)
- ② 人間の生活が制約されない程度に、多種多様な動植物が存続できる環境の保全を進める (54.9%)
- ③ 人間の生活の豊かさや便利さを確保するためには、多種多様な動植物が存続できる環境が失われてもやむを得ない (2.7%)
- ④ 取組には全く興味がない (4.5%)

問4 あなたは、自然とふれあう機会をどの程度お持ちですか。(1つだけ回答)

- ① 常にふれあう機会がある (15.2%)
- ② ある程度ふれあう機会がある (48.1%)
- ③ ほとんどふれあう機会がない (34.8%)
- ④ ふれあいたくない (1.2%)

問5 あなたは、生物多様性に配慮したことが明記された商品が販売されていた場合、購入したいと思いますか。(1つだけ回答)

- ① たとえ値段が高くても、積極的に購入したいと思う (4.0%)
- ② 値段が安ければ、積極的に購入したいと思う (31.7%)
- ③ 値段が安ければ、購入することもあると思う (46.2%)
- ④ 値段に関係なく、誰かに勧められれば購入することもあると思う (12.6%)
- ⑤ 値段に関係なく、購入したいとは思わない (4.7%)

6 信号機のない横断歩道の交通安全について

担当部課：北海道警察本部交通部交通企画課

◆調査の目的

信号機のない横断歩道に関する運転者・歩行者それぞれの意識を調査し、今後の交通安全教育に役立てることを目的に実施。

◆各設問の主な調査結果

問1 信号機のない横断歩道を歩いて渡ろうとしているときに車が来て、次の状況になったことや見たことはありますか。(1つだけ回答)

- ① 車が一時停止したので、渡ることができた (29.9%)
- ② 車が一時停止せず、通過するまで渡れなかった (53.6%)
- ③ 車が一時停止せず、衝突しそうになった (4.8%)
- ④ クラクションを鳴らされたり、罵声を浴びせられたりした (2.9%)
- ⑤ そのような状況になったことや見たことがない (8.6%)

問2 信号機のない横断歩道を歩いて渡ろうとする歩行者がいるのに、車が一時停止しない理由として何が考えられますか。(1つだけ回答)

- ① 1台だけ止まってもほかの車が止まらないから (20.6%)
- ② 一時停止するとほかの車に迷惑がかかる(追突される)と思うから (15.7%)
- ③ 一時停止が面倒だから (28.8%)
- ④ 法律で、一時停止(歩行者優先)と決められていることを知らないから (28.7%)

7 薬物乱用の防止について

担当部課：北海道警察本部刑事部薬物銃器対策課

◆調査の目的

昨今、大麻を中心とした違法薬物が若年層にまん延しており、検挙された者の中には「健康被害はたばこより低い」、「格好がよい」などの誤った認識を持つ者が少なくありません。大麻をはじめとする違法薬物の危険性（有害性）を正しく理解してもらう啓発活動を推進することを目的に実施。

◆各設問の主な調査結果

問1 覚醒剤や大麻などの違法薬物についてどのようなイメージをお持ちですか。
(1つだけ回答)

- ① 絶対に使ってはいけないと思う (88.5%)
- ② 犯罪に巻き込まれると思う (7.0%)
- ③ 法律で禁止されていなければ一度くらい使ってみたいと思う (0.8%)
- ④ 使うも使わぬも個人の自由だと思う (2.3%)
- ⑤ ドラッグはファッションの一部だと思う (0.0%)
- ⑥ 非常に興味がある (0.0%)

問2 違法薬物の知識やイメージを得た情報源は何ですか。(1つだけ回答)

- ① テレビ、ラジオ、新聞 (75.2%)
- ② インターネット（SNS、配信動画、各種サイトなど） (13.6%)
- ③ 書籍、雑誌 (2.2%)
- ④ 職場、学校 (7.4%)
- ⑤ 知人、友人 (0.7%)

問3 違法薬物について知っておきたいことは何ですか。(1つだけ回答)

- ① 違法薬物の種類や身体へ与える影響 (56.0%)
- ② 薬物乱用者が起こした事件・事故 (14.2%)
- ③ 薬物乱用による健康被害 (15.3%)
- ④ 違法薬物に関する相談窓口 (2.6%)
- ⑤ 特にない (11.4%)